

要注意 健康食品シリーズ -いわゆる健康食品中の新規医薬品成分について-

平成15年頃を契機に、強精・強壯用健康食品中からED治療薬に類似した化合物が国内で検出される事例がたびたびみられるようになりました。現在に至っては、医薬品として承認されているものよりも類似化合物の方が多数存在しています。横浜市でも21年6月に試買した検体中にチオアイルデナフィルというED治療薬類似化合物が検出されました。今回は国内でまだ検出事例が無い、新規の類似化合物が当所で検出されましたので報告します。医療安全課が21年9月にインターネットで試買した「萬美 (BANBI)」(写真)という強精・強壯用健康食品について、当所で液体クロマトグラフ-質量分析計(LC/MS)等を用いて成分検査を行いました。その結果、1カプセル中に0.4mgという微量のタダラフィルが検出されたのに加え、その100倍以上含有されていると推定される未知成分がみつかりました。さらなる検査の結果、この未知成分がヒドロキシチオホモシルデナフィル(図1)であることが確認され、これを定量したところ1カプセル中45mg含まれていました。この化合物は医薬品成分として認められていないため、この化合物のデータと共に厚労省に照会をしなければなりません。照会にあたり神奈川県に問い合わせたところ、一足先に神奈川県衛生研究所で横浜市とは別の健康食品中からヒドロキシチオホモシルデナフィルを検出し、この化合物について照会を行っているということでした。厚労省からの回答に時間を要したため、今回の検出事例については神奈川県と横浜市の同時記者発表となりました。この化合物はシルデナフィル(図2)と構造が似ており、ED治療薬と同様の薬効があると推測されますが、薬効や安全性については十分に試験が行われておらず、服用に伴う危険性があると考えられます。

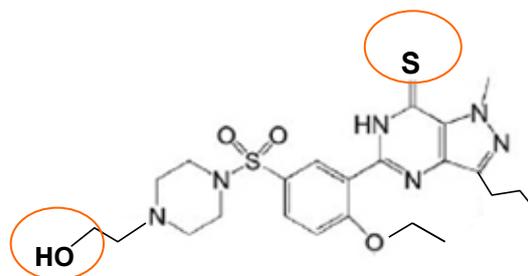


図1 ヒドロキシチオホモシルデナフィルの構造式

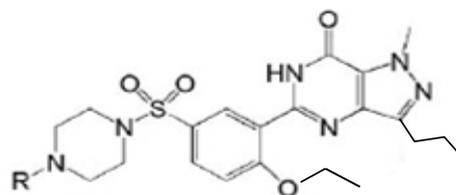


図2 シルデナフィル: R=CH₃
ホモシルデナフィル: R=CH₃CH₂